

機関誌 聖協団報

通巻 第 637号

AD2020年4月1日

発行所 基督聖協団

千葉市中央区椿森2-20-5

編集 横山聖可

発行 岡本伸之

世界歴史と私たちの生涯の秘義

(黙示録5章1〜14節)

練馬教会 小笠原 孝

これは天の究極的な三重の賛美と栄光の礼拝です。私達の栄光のゴールです。当
時も現代も基督者はこのゴールを見て走っていないなければ現実の苦難、迫害、災害、
試練に打ち勝っていきません。この中心にある封印された巻物は世界歴史の謎を説
く書物です。この世界歴史には表面と裏面があります。人々はただその表面だけを
見えています。私達基督者はこの裏面の歴史を読まなくてはなりません。これは世界
歴史の秘義と共に適用すれば私達個人の永遠に渡る生涯でもあります。この巻物
を開く人がいないのを見て記者ヨハネは激しく泣きます。すると「泣いてはいけませ
ん」との声がかかります。主は福音書でも何回かこの言をかけられています。私達
は歴史の現実の中で泣く以外手のない事態に出会います。主の教会がなぜ迫害や苦
難を受けるのか。正しい信仰者がどうしてこんなに苦しまなければならぬのか。一
体、神の救いの歴史はどうなっているのか。それは永遠に解くことの出来ない謎に
見えます。しかしこの秘密を解く方がおられます。復活の主であり十字架にほふら
れた小羊なる主です(5〜7)。十字架の苦しみこそ主の教会の苦難、信徒の受け
る苦しみの歴史を解く鍵です。

歴史はプロセスでありませんが(1)過程、歴史的経過であるだけでなく(2)訴
訟の意があります(辞書参照)。即ち十字架による法的訴訟なのです(ゼカリヤ3・
1、2)。この三重の礼拝賛美はまさに十字架の法的訴訟の歴史的勝利のおたけび
なのです。私の苦しみを完全に負い抜き、共に苦しみに耐え、苦しみの中で勝利し
抜かれた小羊キリストこそ苦難の中にある者に、その意味を教え、最後の勝利を与
える鍵なのです。「ほふられた小羊こそ力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を
受けるにふさわしい方です」この賛美こそ主の民の苦難の意味であり、その勝利の
叫び、宣言であります(12〜14)。これに四つの生きものが「アーメン」と応答し
たように、今、勝利の宣言と共に私達も「アーメン」と大声でこれに応答しましょう。

理念 私たち基督聖協団は各個教会が愛と宣教によって建て上げられるために仕え合います。

キングダム
KINGDOM





札幌教会 レポート



小形 弘恵

こんにちは。オリーブチャペルについて、賛美の曲を通して紹介します。

♪神の国と神の義をまず求めなさい

令和二年度の標語として、このみことばが石田牧師を通して与えられました。昭和五年のリバイバルから開かれた「祷告と宣教」の歴史を土台として、「主の来臨」「イスラエルの救い」「日本のリバイバル」をまず求めて、神様の約束を信じて祈り続けています。

毎週の礼拝で石田師ご夫妻、坂本師ご夫妻、石橋師、時には小林師と、多くのメッセンジャーから「神の国と神の義」について教えていただき、

沢山の励ましと恵みを受け、賛沢な祝福をいただいております。

また11年前から「再臨待望聖会」は、北海道胆振沖地震の中でも継続して開催し、オリーブチャペルの大きな軸となっています。「日の昇るほうでは主の栄光が」（イザヤ59・19）のみことばから、日本だけではなく、極東の地域の祝福とリバイバルを求める啓示を受け、「ロシア・サハリン宣教への挑戦」が開始されました。皆さんに届くニュースレターは、礼拝後に教会員の奉仕により準備され、スタンプを押し、宛名を張り、発送をしています。そしてニュースレターは現在七百部を超え、札幌から全国へ、時には外国へと届けられています。作業の奉仕をされる方々の笑顔も一緒に届いているのではないのでしょうか。祝福をお祈りください。

♪雨を降り注ぎ

オリーブチャペルでは沢山の方々が活躍しています。賛美奉仕者、パワーポイントの操作をする方、司会や受付、警護の当番の方、マイクや音響の調整をする方、CDを焼いて発送する方、障がい者のために賛美のページを開いてあげる方、パソコンで会計をチェックする方、お花を飾る方、料理をふるまう方、一人一人に話しかける方、通訳する方、進んで子供と遊ぶ方、教会のお客様の名前を覚えていて送る方、送り迎えをする方、お掃除する方、CSの先生、と私が知っているだけでもこんなにいらっしやる方々が生き生きと輝いているのです。今年も恵みの雨が注がれ、地域に

「神の国・福音の拡大」ができますように。

♪私の家は祈りの家

札幌教会は「祈りの家」として開かれました。祈り手も二代、三代と代わりましたが、祈りの火は消えることなく受け継がれています。「神の国と神の義」を求める祈りの次には、積極的に教会員のためにも祈っています。礼拝後に、病んでいる方々のために心を一つにして祈ることに、主は答えてくださり、御業を表してくださいました。更に青年部、壮年部、婦人部が開かれ、どんな問題も分かち合い祈り合える家族的な雰囲気、大きな慰めと励ましを感じるこの頃です。

4年前には教会として、駐車場の取得が出来、古い一軒家がついてきました。掃除・草取り・修繕を経て、現在、ゲストハウスとして利用しています。講師の方や韓国をはじめ、ロシア、イスラエル、フィリピン、フィンランドなどからの宣教チームの宿泊に利用されています。祈りの家がますます用いられますように。

最近の教会の最大の祈りの課題は、石田師夫妻の後継者についてでした。今回、坂本清憲師・麗名師ご夫妻が役員会と教会員の賛同を得て内定となりましたことも、祈りの結果として得た大きな喜びです。感謝します。

札幌教会オリーブチャペルでは、一人一人みんな違います。一人一人が神様を愛して、教会を愛して集まっています。この恵みは、キリストの体である聖協団にある教会の、互いの篤いお祈りの故です。皆様の祝福を心からお祈りいたします。

地方伝道を考える

仙台宣教センター 中澤竜生

平素より活動を覚えお祈りとご支援くださり、心から感謝を申し上げます。今も地域への貢献を主として、活動を続けています。

さて、南三陸町の総人口は約二十万人（震災後人口一十七万人）。この町で伝道するには知恵が必要です。

幸いと言つていいものかと迷いますが、震災時には多くのクリスチャンが熱心にボランティア活動をはじめ、無償の応援をしてくださったことで、現地ではクリスチャンの印象がよく、今でも感謝される方が多くいます。ですから、震災より5年目までは人間関係を築くことも容易でした。それが今では変化が起き、関係作りは難しくなっています。その変化とは、田舎であるがために抱える社会問題であつて、問題の進行も早く、それを理解する必要性があります。そこに無関心であつては、関係作りはむろんの事、関係の継続さえも希薄となつていきます。

地方が抱える「そもそも」の課題を親身に受け止め、愛の宣教活動による取り組みを遂行する「そもそも」とは、震災前から各市町村が抱える深刻な社会問題です。避難所時、仮設住宅時にはボカされていた課題が、復興住宅完成から4、5年経つてジワッと浮き彫りにされてきて

います。それは弱者にとつて、震災前よりも酷く、

最悪の場合、居場所を無くすという事態までもが起きています。私を知る家族は、復興住宅に入居したものの経済的な問題があり1年後には入居が分からなくなりました。このような事例はたくさんあります。その他、「過疎化」「少子化問題」「経済低迷」「災害援護資金によつて発生した倒産等」「老老介護」「医療課題」「孤独死」「8050問題」「自死」「家庭内暴力と虐待」などもあります。これらの問題は連鎖しています。そこで自治会や行政区、社会福祉協議会等はこちらを見守るために日頃より人間関係を大切にして必死に活動を続けています。それでも問題は絶えることがありません。手を差し伸べる側にも受ける側にも「愛の渇き」が起こっているのです。私たちはこの隙間で活動をしています。これを「愛の宣教活動」と位置付けています。人間関係につながる宗教活動はいたしません。

宗教は警戒される

南三陸町は、神社仏閣はありましたが、新興宗教やキリスト教は無く、創価学会ですら布教できない地域性がありました。ですが今では天理教、創価学会、キリスト教などの共同体や施設があります。入信数は不明ですが、噂は多く

聞きます。世間では「違う目」で見られているとのこと。ある宗教は社会との分離を設けることで警戒されています。わざわざそんな不信感を招くような行動をする必要はありません。私たちは、宗教は疑わしい、という概念を壊し、関係によつて生活に聖書のみことは紹介することや、関係によつてグッドニュース（福音）を話すことで十分だと考えています。そして、「そもそも」には知恵を使つて対応する誠実な姿勢こそが証となると確信し、田舎で取り組んでいます。これこそが愛による宣教活動であると考へます。私たちは常に1万人に目を向ける必要がある、と聖霊に教えられています。

—主は言われる—

盛り上げよ。

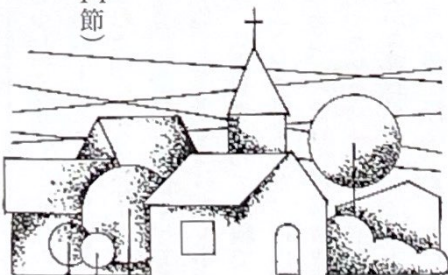
土を盛り上げて、

道を整えよ。

わたしの民の道から、

つまずきを取り除け。

(イザヤ書57章14節)





聖地旅行

念願の聖地旅行に参加して

石田祐人

今回、聖協団で聖地旅行があるというお話聞いて、行きたいという気持ちと同時に、費用のことがあつてもすごく悩みました。私は神学生時代にもイスラエルに行くチャンスがありました。が、中高生キャンプの奉仕が重なり断念しました。卒業してからも、神学校で聖書考古学を教えてくださった先生から直々に、「行きませんか？」とお誘いを受けましたが、牧会とアルバイトがあり行くことができませんでした。

だからこそ、今回はなんとかいけたらいいな、と思つてはいたものの悩んでいました。そのために、祈つていると「求めなさい。そうすれば与えられる」という御言葉が与えられ、何度か祈つていると、イエス様に「行きなさい」と言われているような気がしていたところ、濱野先生から「一緒に行きましょう」と声を掛けていただき、「このチャンスを逃したら次に行くチャンスがいつ来るかわからない」と思い参加することを決意しました。

もちろん、貯金も参加費の当てがあるわけではなく、ただ信仰のみでした。だんだん、参加費入金の期日が迫るにつれて心配していたのですが、不思議なことに費用が満たされ、無事にイスラエルに行くことができました。見えないところで、祈つてくださった方や、献金してくださった方々に本当に感謝しています。このことは、すでに行く前からイエス様が恵みを体験させてくださったと思つています。

イスラエルでは、イエス様は確かにこの地上にお生まれになり、その生涯を最後まで全うされたということを実際に感じる事ができました。今まで聖書を読み、あらゆる視聴覚教材を通

して、聖書の世界を少しでもリアルに感じられるようにと勉強や、メッセージをしていましたが、そのイエス様の歩まれた地に自分も行くことで、当時の文化、食、生活、空気、風景すべてを通して聖書の一つ一つが決して文字ではなく事実であつたということ、この身をもって体験できたことが何よりの恵みでもありました。特に、ガリラヤ湖のほとりにある、ペテロの再召命教会では、イエス様を裏切つた後のペテロをガイドのルツ先生が様々な角度から質問し、ペテロが当時どんな思いをしてガリラヤ湖に行き、またイエス様と再会したときにどのような心境だったのかを深く考える時、私は涙が溢れそうになり、自分もどれだけイエス様を裏切つてきたらうかと思われました。さらに、エルサレムに行き、観光をしていると実際に鶏が鳴いた時には、ゾワツツしました。

聖地旅行はあつという間に終わつてしまい、帰るときには本当に寂しくなりました。もつと滞在して、もつと聖書の世界を肌で感じたいと思いましたが、よく、死ぬまでに一度は行きたいと言いますが、一度ならず何度でも行きたいと正直思います。それだけイエス様の歩まれた地に立つこと、でしか体験することのできない不思議な恵みがいっぱいあるのだと思えます。私は、ぜひ若い世代の方々にも行ってもらいたいと思えます。それは、いっぱい歩くから(笑)。でも行くと絶対に聖書の世界がよりリアルになり、もつと聖書のことやイエス様のことを知りたくなり、楽しくなること間違いなしです！ハレルヤ!!

証

証

恵みの証

千葉教会 市橋孝子

私は、母と同じ日本基督教団の教会へ通っていました。結婚し、子どもが生まれると、「メッセージの邪魔になるから子供を連れてきてはいけない」と牧師婦人に言われ、夫に預けようと思いましたが断られ、途方に暮れていました。そんな時、ものみの塔の方に「あなたは救われていない」と言われ大変困惑し、その中で自分の罪を示され苦悩しました。夜も眠れずお乳も出なくなり、ノイローゼになりました。外に出なさいと導かれ、どこに行くのかもわからず迷い歩いて、気づいたときには実家の前に立っていました。夜中だったので、戸も閉まっておりドンドンと叩いて開けてもらいました。「両親が暖かく迎えて下さり、子どもを寝かせ、私にも布団を敷いてくれました。その布団に横になり、天井を見上げると、そこに十字架の幻が見えました。「汝の罪、赦されたり」と主の声を聴き、それまでの苦悩や混乱は取り去られ、喜びがあふれました。

その後、家の前にあつたバスの停留所に行った方に「どちらに行かれるのですか」と何気なく声をかけた所、教会に行かれるとのこと、その方の通っておられるバプテスト教会に通うようになりました。その後、その教会

の先生が青森に移られることになり、先生の神学校同期だった谷中栄先生の教会を紹介され、千葉教会に導かれました。栄先生から信仰の訓練を頂き、今もイエスさまと共に喜びにあふれた毎日を送ることができています。ハレルヤ!

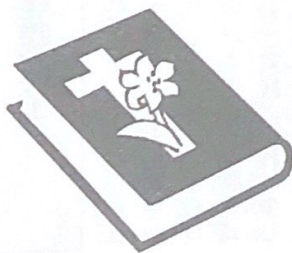
現在、私は老人ホームに住み、日曜日には教会の方たちの送迎で教会に通っています。最近ホームに入られた方で、教会に通っていたけれど結婚した方が仏教で、教会に通うのをやめられたという女性と仲良くなりました。彼女の趣味が和歌で、彼女と和歌のやり取りをするようになりました。私の和歌は、聖書から受けた恵みや信仰、賛美の和歌で、泉さんというその友人もとても喜んでくださっています。その和歌を、43年精神の病を患

信仰の和歌

よく来たネ 両手広げて この部屋に 今も主イエスと ともに住まわん
 自分では 何もできない 高齢に なっていいよ 信仰に燃ゆ
 目に見える あの人この人 私かと 云ってる時は 信仰はなし
 罪悔いて うなだれ苦しむ その時に 底より聞こゆ だからわたしは
 我が内の 生ける主イエスが 宝もの 互いに名を呼び 喜びの朝
 主と共に 居ます所が 天国で 今日この旅路を 味わう楽しさ

い、薬の副作用で苦しむ私の娘に毎日電話で読んでいます。電話は以前から毎日していましたが、その和歌を分かち合うようになると、娘の声が明るく元気になり、病の症状も出なくなりました。和歌を作るのは、とても楽しく、新しい友と信仰を分かち合うために、主が与えてくださったのだと思います。しかし、主のお考えはもつと高く、娘を苦しみから救うために泉さんをホームに送って下さり、信仰の和歌を与えてくださったのだ!と思いついた時に主をほめたたえ、主のすばらしさに心躍りました。

私はイエスさまが大好きです。イエスさまと一緒に生きられる毎日を心から感謝しています。皆さんの上にも、イエスさまの祝福が豊かにありますようお願いしています。



証

証

証に生きる人生

中川教会 井上民子



何か大変なお題をいただいて、何度もお断りしようと思いましたが、「85歳、生かされし神の恵み」にただ感謝し筆を執りました。

私の愛唱歌は何かと聞かれれば、新聖歌268番『御国の心地す』とすぐに答えます。

1、悲しみ尽きざる浮世(うきよ)にありても
日々主と歩めば 御国の心地(ここち)す
ハレルヤ！罪咎(とが)消されしわが身は
いづくにありても 御国の心地す

この歌詞は、私の心のすべて、私の人生の歩みそのものです。私は長野県の上田で育ちました。私の手元にある、一枚のセピア色の写真。国民学校一年生の私です。帽子、靴、ランドセル、草履袋、セーラー服、スカート、靴下。現代では当たり前に入る物も、この時代には高価

な品々でした。全部、叔父と叔母がプレゼントをしてくださいました。父方の親族は子供に恵まれず、四番目の父の子である私が初孫でしたので、まるで良家の娘のように親戚の皆さんに祝ってもらいました。しかし、実家は貧しかったので、自分よりも恵まれた環境に育っている人達を見て、小さい時からこの世の中の矛盾を感じていました。「なぜ、私はこのような貧しい環境なのに、あの子は恵まれた家に生まれたのだろう。どこにも平等はないのではないか。」そう思っていました。

成人してからもその思いは消えずにいました。ある時、私の住んでいた長野県の上田に、軽井沢から宣教師の先生が公園で天幕伝道を行っていて、配られていたチラシの御言葉に目がとまりました。「それ神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永

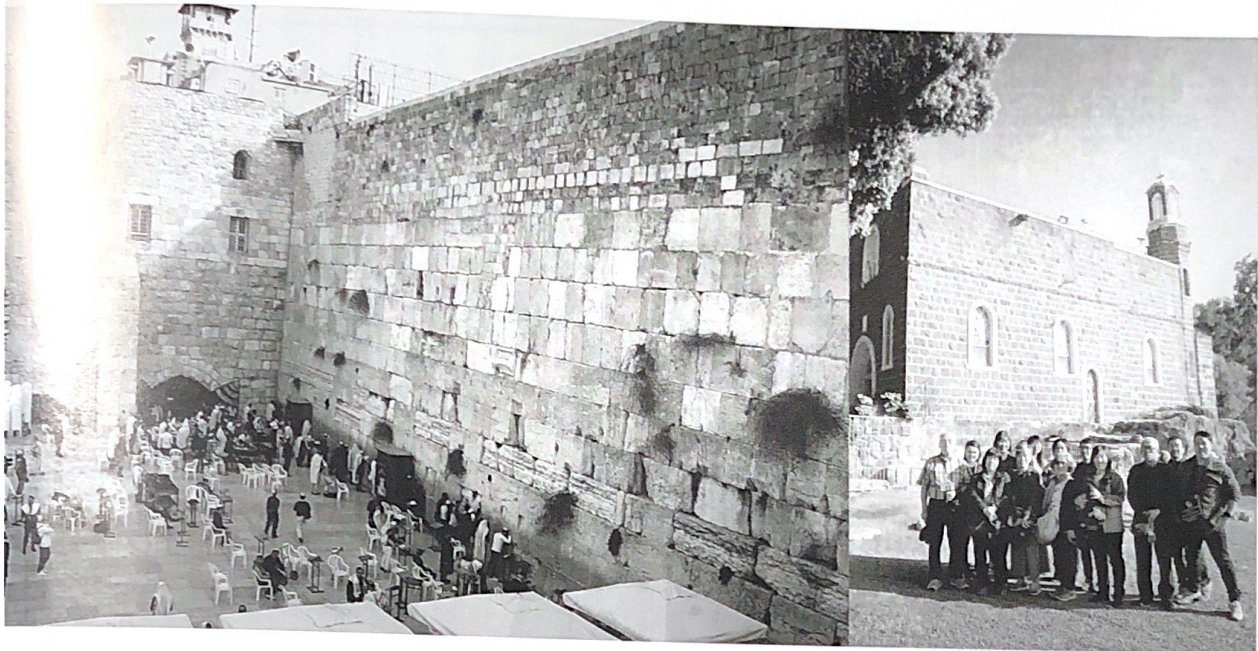
遠の生命を得んためなり。」(ヨハネの福音書3:16・文語訳) この御言葉に導かれて教会に行くようになりました。そして平等を求めていた私に対して、ここに愛の平等があったというところから求道し、軽井沢から宣教師の先生が集會に来るたびに教会に行き、救いに導かれました。

その後、聖協団との出会いがあり、これまで聖協団の牧師として歩んでまいりましたが、あの幼少の頃、高価なプレゼントをしてくださった叔父や叔母をはじめ、多くの人達に支えられこれまで生きてまいりました。私は今に至るまで本当に多くの人達に支えられてきたので、その恩に報いるために福音を伝えなければと気づかされました。そこで両親の召天者記念をと企画しました。福島先生ご夫妻に御苦勞願ひ、出来る限り親戚を招待して、記念会で福音を語っていただきました。皆さん大変喜んでくださり、少しはご恩返しが出来たかと思えます。

これからも主に祈り続け、主に多くの恩返しとして福音を語り続けたく願います。

「時が良くて悪くても、福音を宣べ伝えなさい」





聖地旅行に参加して

千葉教会 佐藤直子

今回の聖地旅行に参加できるとは思っていませんでしたが、主が導いてくださり、道が開かれ参加することができました。この旅行のためにお祈り頂き、ありがとうございます。

私にとって13年ぶり、2度目のイスラエルでした。初めての時も大変恵まりましたが、今回も一味違った感動と恵みに溢れた旅となりました。訪れた二つの地で語られるガイドの柿内ルツ先生による解説も、バスの道中、見える景色や草木の様子などから、イスラエルの文化、歴史などについて、メモが追いつかないほど興味深いお話を沢山伺うことができました。主の歩まれた地の空気を吸い、その地面に立ち、水に触れ、全身で聖書の地を味わう贅沢な時でした。

夜明けにガリラヤ湖に昇る太陽を見たときに、聖書の中でイエスさまがまだ暗いうちに静かなところで祈られ、迎えた朝は今日のようなのだらうか、イエスさまがエルサレム入場の際に通った道がこんなに急な坂だとは知らなかった！（手すりがないと転がり落ちそうなほど！）と行かなければ分からないことを沢山経験することができました。バスの中で聖歌の「主はガリラヤ湖の」を讃美した時には、主が私を選んでくださったこと、召して下さっていることが胸に迫り深く感動しました。

また、面白い経験もありました。私たちがエルサレムを訪れ、嘆きの壁に行ったのは月曜日でした。その日に嘆きの壁に向かう道は、観光客ではなさそうな着飾った女性や女の子が沢山いて、不思議に思っていました。嘆きの壁は祈る場所が、

男性と女性の場所が分かれていて、その境目の仕切りどころに女性たちが張り付き男性側をのぞきながら写真を撮ったり、キャンディーを投げ入れていました。バル・ミツバとよばれる成人式が行われていたのです。私もご家族に紛れて少し見学させて頂きました。

エルサレムでは3泊し、十字架への道を中心に10カ所以上を巡りました。地理的に分からなくなりながら、歩いて回りましたが、最終日にイスラエル博物館でエルサレムの模型を見学し、沢山行き廻った場所を上から眺める形で復習することができ、とても理解が深まりました。

その中でも、私が一番印象に残ったのはゴルゴダの丘でした。今までイメージの中では、イエスさまの十字架は、エルサレム旧市街から少し離れた小高い丘の上、という理解でした。しかし、模型でよく見ると、ゴルゴダはエルサレム城壁の門のすぐ脇にありました。人々が行き交う城壁の門の脇で、江戸時代のさらし首のように、人々を通る道からよく見る場所であったことが分かり、今までのイメージが間違っていたことを知り驚きました。

旅の感動をすべて書いたら字数が足りませんが、ここまでになります。胸に迫る感動と体験的に聖書を味わう、喜びにあふれた聖地旅行でした。喜んで送り出してくれた家族と旅を導き祝福して下さった主に心から感謝します。

報告

★ 1月13日、練馬教会を会場に新年聖会が持たれました。「聖めと宣教」をテーマに、午前は陣内俊師が午後は金光鉉牧師が御用をされ、救霊の思いとチャレンジへの意欲が与えられました。

★ 1月13日、新年聖会の後、教団理事会が持たれました。

★ 2月13日、岡本理事長は京都教会を訪問し、佐藤光子師と交わりと祈りの時を持ちました。

★ 2月17日、千葉本部にて教団理事会が持たれました。



受洗おめでと〜ンバグーイマス

鎌田 制兄 (弘前富士見教会)
葛西ヒデ子姉 (弘前富士見教会)



★ 5月に予定していた若手牧師のスクーリングは、財政的な理由から実施しないことが、聖書学院として決定しました。秋は実施の予定です。

★ 春の聖協団大会は、新型コロナウイルスの影響で、常任代議員会と福祉委員会のみ開催することが、理事会で決定されました。

お知らせ

2020年行事予定

	日時	会場
せーねんキャンプ	5月4日(月)~6日(水)	基督聖協団本部
餃子キャンプ(中高生)	8月7日(金)~10日(月)	軽井沢フェローシップバイブルキャンプ
キッズキャンプ(小学生)	8月18日(火)~21日(金)	基督聖協団本部
お茶の水の集い	10月17日(土)	お茶の水クリスチャンセンター
教職者リトリート	10月27日(火)~29日(木)	聖心会マリア修道院黙想の家
若手牧師スクーリング	11月(日程調整中)	基督聖協団本部

この新聞は、ものみの塔、統一協会、モルモン教とは一切関係ありません。

発行所 千葉市中央区椿森2丁目20番5号
基督聖協団本部

編集者 横山 聖司
発行人 岡本 伸之

電話 千葉(043)25338255番
振替 001203-14143 (基督聖協団本部)

定価 一部50円